

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	(1)学力向上進学重点校として、生徒が希望する進路実現のための教育課程を編成する。 (2)授業の質の向上と量の確保に努め、生徒の一層の学力の向上を図る。 (3)世界的な視野で物事をとらえ、現代社会における課題を見出し、自身の力を発揮しながら主体的に課題解決を図る力を育成する。 (4)「生徒の心に火をつける授業」を追求し、質の高い教育を充実させるため不断の授業改善を行う。	＜教育課程＞ (1) 学力向上進学重点校として、県立高校改革実施計画に基づく「質の高い教育の充実」のための教育課程を編成する。 (2) グローバル化が進む社会の中で求められる資質・能力を育成するため、生徒の国際的視野を広げる学習プログラムを計画し実施する。 ＜学習指導＞ 本校に求められている学びの在り方を追求し、生徒が主体的に探究し、考察する力を高められるよう不断の授業改善に取り組む。	＜教育課程＞ (1) ①生徒一人ひとりの進路希望をより高く確実に実現するための教育課程を不断に追求する。 ②教育課程における「指導と評価の一体化」の趣旨を活かした適切な観点別評価方法の検討を行い、実施する。 (2)①姉妹校交流の効果を検証し、継続に向けたプログラムの開発に努める。 ②国際交流委員会の活動を中心として様々な行事、国際理解教育活動を増やし計画的に実施する。 ＜学習指導＞ ①1人1台端末やICT機器の活用をとおし、教員の授業力向上を図り、生徒の「学びに向かう力」及びその評価方法に係る授業づくりを組織的に推進する。 ②DXハイスクール事業2年目の取組として、補助金で整備した機器の有効活用を図る。1人1台端末を持続的かつ効果的な利活用を図り、組織としての授業力向上を図る。	＜教育課程＞ (1)①生徒にとって満足度の高い教育課程の編成ができたか。 ②学校として一貫した観点別評価方法を確立し、実施できたか。（担当者による評価） (2)①姉妹校交流を適切な実施計画により実現し、生徒の国際的な視野を広げることができたか。 ②国際交流委員会の活性化が図られ、生徒の国際理解活動が推進できたか。（生徒対象アンケート） ＜学習指導＞ ①校内授業研究及び公開研究授業を通して、本校に求められる「自立・自走」の基盤となる「主体的に学ぶ力」が高まるような授業改善が推進できたか。（担当者による授業評価、生徒による授業評価） ②ICT 機器の活用を通して「グローバル探究」の充実を図り、「深い学び」につながる効果的な授業実践が実施できたか。（DXハイスクール事業の取組成果、生徒対象アンケート）					
2	生徒指導 ・支援	(1)豊かな社会性や他者への思いやり、冷静な判断力など「真のトップリーダー」に求められる人間的な素養の育成を図る。 (2)基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成を図る。 (3)個別な支援が必要な生徒に対する教育相談体制の充実を図る。	(1)学校生活や社会との関わりの中で、他者を思いやる心や規範意識、判断力や行動力の伸長を育む教育活動を一層充実させる。 (2)規則正しい生活や時間管理など、基本的生活習慣の確立に主体的に取り組む姿勢を育てる。 (3)安心・安全で意欲的に学校生活を送れるよう、教育相談体制の更なる充実を図る。	(1)授業や部活動、学校行事等とおして協働し、適切に判断して行動できるよう自覚を促す。 (2)職員間で生徒指導提要在改訂された趣旨の理解を深め、登校時間の順守や挨拶の徹底、TPOに則した身だしなみについて、主体的な自律を促す。 (3)学年団・SC・SSWと連携を密に取り、組織的な教育相談を実施する。生徒個々の状況に応じてケース会議を開催する。	(1)授業や部活動、学校行事等での取組を通して、充実感や自信を持つことができたか。（生徒による授業評価、学校生活アンケート） (2)適切かつ主体的に取り組むことができたか。（担当者ごとに評価） (3)個別の支援が必要な生徒に対する情報共有が円滑になされ、組織的な対応ができたか。（担当者による評価）					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)学力向上進学重点校として、生徒の高い進路希望を実現させるための支援体制を確立する。 (2)大学卒業後の進路も見すえたキャリア教育を推進する。	(1)生徒の高い進路志望の実現のための指導・支援を更に推進する。 (2)生徒自身が主体的に大学卒業後の進路を見ずえることができるようなキャリア教育を実施する。	(1)①進路集会、保護者進路説明会を通して、生徒保護者に対して外部試験のデータだけでなく、進路実現に対する高い意識付けを行う。 ②生徒の進路実現に向けた学習支援「翠嵐スタンダード」や心構え「翠嵐ベーシック」について指導の場面ごとに定着を図らせる。 (2)生徒が能動的に探究できるような校外研修、分野別職業講話の形態を検討する。	(1)①学力向上進学重点校として求められる進路実績を上げることができたか。(令和7年度卒業生の進学実績) ②生徒の進路実現に向けた取組を推進することができたか。(担当者による評価) (2)大学での学びに対する理解や職業観に加え、主体的に取り組む態度を涵養することができたか(生徒対象アンケート)					
4	地域等との協働	本校の教育活動や特色ある取組について、情報を発信し、地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。	(1)本校の教育活動や特色ある取組に関する情報を広く発信するとともに、学校運営協議会等による地域との協働を更に進めていく。	(1)①学校HPやメール配信システムを活用し、迅速で正確な情報を発信する。 ②本校を目指す多くの中学生・保護者が満足しうる学校説明会を実施する。 ③地域との連携を可能な範囲で推進し、生徒に地域貢献の大切さを理解させる。	(1)①学校の情報を迅速かつ正確に発信できたか。(HPの更新状況) ②学校説明会や学校見学を複数回実施し、本校への理解をより深められたか。(参加者アンケート) ③生徒が地域との連携をとおして、生徒が地域連携の大切さを理解できたか。(担当者による評価)					
5	学校管理 学校運営	(1)事故・不祥事防止に向けた取組を徹底する。 (2)防災意識の向上を図る。 (3)教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、一層の「教員の働き方改革」を推進する。	(1)全職員による丁寧かつ粘り強い生徒指導に取り組み、相互理解に立脚した生徒の人間関係の構築力を育成するとともに、秩序・規律ある学習環境を維持する。 (2)避難訓練等の防災教育をとおして、教職員及び生徒の防災意識の向上を図る。 (3)職員の働き方改革を推進し、時間外勤務時間の縮減と休暇の取得しやすい職場環境を構築する。	(1)不祥事防止会議を活用しながら、とりわけ入学者選抜・成績処理における点検体制の徹底を図り、事故・不祥事の防止を図る。 (2)地域との協働により、地域防災の視点を取り入れ、実効性のある避難訓練やDIG訓練を実施する。 (3)業務アシスタントを有効に活用し、職員の時間外在校時間の縮減及び夏季休暇の完全取得を目指す。	(1)不祥事防止会議を適切に開催できたか。また、入学者選抜、成績処理における点検体制の徹底が図られ、事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) (2)地域との連携を深め、避難訓練等の実施より、教職員及び生徒の防災意識に向上が見られたか。(担当者による評価) (3)業務アシスタントの活用はできたか、時間外在校時間の前年度からの縮減できたか及び夏季休暇の100%取得が達成できたか。(業務アシスタント業務日誌、時間外在校時間、夏季休暇の取得状況)					